2022 年度　アクティブ・ステューデント応援奨学金　活動報告書

国際経営学部　国際経営学科　3 年
川野 宰知

はじめに

この度は、2022 年度アクティブ・ステューデント応援奨学生に採用していただき、誠にありがとうございました。私はグローバルビジネスリーダーになることを目的にスノーボードのインストラクターとして、中国語と英語でレッスンを行うことに挑戦をした。このような挑戦を行った動機は、国際経営学部の授業である Global Studies 1 でオーストラリアにオンライン留学した際の経験に基づいている。過去に自身が実感した語学力の不十分さを感じた背景から台湾留学など何かしら自身の語学力を向上させなければならないと考えた。しかしながら、新型コロナウイルスの度重なる感染拡大と台湾のロックダウンによる入国厳格化により、留学は難しいと判断した。そのため当初の計画を変更し、語学資格の取得と自身の趣味であったスノーボードでインストラクター資格を取得し、日本への渡航者を対象にレッスンを行うものに変更した。これは渡航者に英語と中国語でレッスンを行うことで、留学に取って代わる実践的な語学力が向上させられる機会だと捉えた。

スノーボードにインストラクターとして活動する際、私は大きく分けて 3 つの目標を設定した。1 つ目は英語と中国語を活用し、留学では得られないお客様を相手とした実践的な語学力を向上させると設定した。しかし、この活動ではアカデミックな英語を学ぶ機会が不十分であると考え、同時進行で語学試験の勉強を行うものとした。2 つ目は、スノーボードスクールに所属する事により学生のアルバイトではなく、社会人としての立ち振る舞いや責任について学び、人間として成長すると設定した。3 つ目は、ウィンタースポーツ文化を自国に持たない人に文化の魅力を余すことなく伝えると設定した。私はこれら 3 つの目標を達成するため、以下の活動を行ったことを報告する。

スノーボードのインストラクター活動

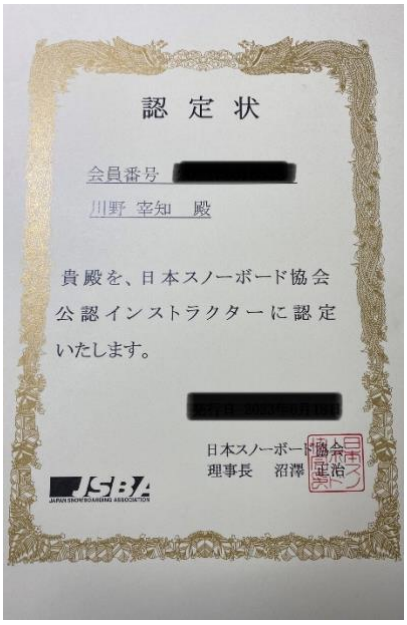
① <u>インストラクター資格取得について</u>

はじめに、日本でスノーボードインストラクターとして活動するには、インストラクター資格を取得する必要があることとスノーボードスクールに所属する必要がある。日本で取得できるインストラクター資格は 2 種類あり、JSBA（日本スノーボード協会）と SAJ（日本スキー連盟）がある。この 2 団体では、役割が全く異なっている。違いとして JSBA はスノーボードの専門機関であり、日本で唯一 WSF（世界スノーボード連盟）の加盟団体である。海外では JSBA の方が知名度は高く、オリンピックを除く国際大会に出場するには所属する必要がある。またインストラクター試験が国際基準であるため SAJ より難関であり、海外のライセンスに書き換えることが可能である。一方で、SAJ はスキー連盟のスノーボード部門の位置付けであり、資格試験は日本独自の基準で行っている。オリ

ンピックやオリンピック予選会などに出場する場合に限り、所属する必要がある。このような違いが挙げられるが、国内で活動する場合、大きな違いはない。そのため、海外資格への書き換えが可能な JSBA のインストラクター資格を取得した。

② スノーボードスクールについて

資格取得後スノーボードスクールに所属するために、JSBA 所属のスクール 5 校の採用試験を受験した。スノーボードの技術レベルが一定水準あることや家庭教師経験があることから、5 校とも採用について内定を頂いた。私は外国人の来訪者数、給与条件や交通の便利さを考え、石打丸山スキー場にある IPSS スノーボードスクールに所属することを決めた。石打丸山スキー場は越後湯沢駅が最寄りで東京から新幹線を利用して、約 1 時間半で行くことが出来る。そのため、湯沢エリアには交通の便が良いことから国内外問わず多くの観光客が訪れる。2022 年～2023 年シーズンでは 184 万人の方が湯沢エリアに訪れ、石打丸山スキー場には 30 万人が訪れた。その中で IPSS スノーボードスクールには、約 1 万人程度の観光客が訪れ、そのうち外国人は 1000 人程度であった。


認 定 状

会員番号 [redacted]

川野 宰知 殿

貴殿を、日本スノーボード協会公認インストラクターに認定いたします。

[redacted]

日本スノーボード協会
理事長 沼澤 [illegible]

JSBA C 級インストラクター認定状

上記の外国人来訪者数の多さの背景には、いくつ理由がある。1 つ目は、新型コロナウイルス感染症の蔓延による、中国や台湾、香港の渡航制限が解除されたことが挙げられる。海外への渡航が自由になったことにより、日本に多くの外国人が訪れた。2 つ目は、スキー場の施設が近代的であり、交通の便利さが挙げられる。石打丸山スキー場には、「サンライズエクスプレス」と呼ばれるコンドラキャビンを備え、快適機能を搭載した最新鋭の索道輸送設備がある。これにより、従来のリフトでは輸送する事が出来なかったビギナーやノンスキーヤー（スキーをしない雪山観光目的のお客様、キッズの保護者のお客様）を輸送出来るようになった。また、暖冬少雪時にはゴンドラキャビンで積雪が充分ある中腹エリアまでスキーヤー・スノボーダーを運ぶことが出来、安定したスキー場オープンを可能にした。交通の便利さについては、上記の通りである。3 つ目には、中国人スノーボーダ―のコミュニティが湯沢エリアにある事が挙げられる。このようなコミュニティは湯沢エリアにのみ存在し、湯沢エリアで中国人や台湾人、香港からのお客様に対して中国語でレッスンを行えるのは IPSS スノーボードスクール以外ない。このような理由から、所属スクールである IPSS スノーボードスクールには多くの外国人がレッスンを受講しに来られる。

③ インストラクター活動について

スクールに所属し、インストラクターとしての活動期間は 2022 年 12 月末から 2023 年 4 月上旬までの約 4 か月間に渡る。活動初期の 12 月末では、自身でレッスンを持つことは出来ず、上司のレッスンに帯同した。今までスノーボード含め、スポーツ全般レッスンを受けた事が無かったため、レッスン内ではどの様なインストラクションが行われているのかを初めて知った。また、スクールを運営するために必要な雑務全般を行うと共に、SNS (Facebook, Instagram）での広報活動を行い、スクール運営に必要な仕事を学ぶ期間であった。このような研修期間が 1 か月続いた後、正式にインストラクターとなった。

インストラクター活動では、莫大な業務量に圧迫される日々が続いた。正直な話、今まで苦労したことが嘘だと思えるくらいには大変であり、仕事量や人間関係で私は年明けすぐにでも逃げ出したいと考えた。初めに雪国での生活により除雪活動があり、日中はレッスンを約 6 時間行い、その後生徒のレッスン記録を付けるなど莫大な業務量であった。その中でも、私が最も苦労したのは生徒に対してレッスンを行うことであった。私の今までのスポーツ経験として、スノーボードと陸上競技の中距離種目の 2 つがある。しかし、そのどちらも感覚やセンスを元に競技に取り組んでいたため、スポーツならではの感覚的な部分の言語化に最も苦労した。日本語ですら、言語化が上手く出来ていなかったため、外国人にレッスンを行う以前の問題であり、私は大いに自信を失っていた。そこで私は言語化を上手く出来ない事には大きく分けて 2 つの課題があると考えた。1 つ目は、レッスンの経験値不足による引き出しの少なさである。そのため、私は積極的に上司や先輩インストラクターに教え方に関する質問を投げかけると共に、上司や先輩インストラクターのレッスンに研修時間以上に積極的に帯同した。約 30 時間帯同する中で、インストラクターとしての立ち振る舞いやインストラクション、リフト上での会話など多くの事を学んだ。2 つ目は、自身の中国語と英語の語彙の少なさである。一般的な日常会話は問題なく行えたが感覚を伝える際、言葉に詰まる事が多かった。そのため、体の部位やスノーボードの専門用語を学び直すと共に、比喩表現についても学び直した。その際にこれらの単語や表現を語学マニュアル化し、英語や中国語を理解できる人ならレッスンを行えるようにした。これらの学びを 1 か月間行った結果、日本語や中国語、英語問わず問題なくレッスンを行える状態となった。また、お客様からの評価が 10 段階中以前は平均 7 であったが、1 か月後では 10 段階中平均 9.3 となった。このような試行錯誤を経て、物事を改善する事に対して自信が湧き、良い成功体験となった。この頃には、莫大な業務量には慣れ、スクール上司や先輩とは良好な人間関係を築けていたため、逃げずにインストラクター活動を続けて良かったと感じた。

次にインストラクター活動を通じて、最もやりがいを感じた瞬間について書く。それはお客様を長期に渡り担当し、生徒に感謝される事である。これは上海から家族 3 人で来られた 5 歳の女児の話である。女児は両親と 3 人で日本に来られ、約 2 週間の長期に渡る滞在であった。その内、1 週間余りのレッスンを私が担当する事になった。私は未就学児にレッスンを行うことが初めてかつ、渡航者とのこともあり、中国語でのレッスン計画を立

てる段階で既に疲弊していた。最初の 1 日はスノーボード未経験ということもあり、簡単な用具の説明と手をつなぎながら少しの簡単なレッスンで切り上げ、雪遊びを行った。雪遊びをする中でも、必ず女児と目線を合わせ、信頼関係の構築に尽力した。しかし、このようなスケジュールが 2 日続き、私は本格的なレッスンが行えない事に対して焦りを感じていた。私はロープを使う事で転ばない環境を作り、スノーボードに対する恐怖心を取り除くことに注力した。しかし、スピードが出るにつれ、座り込んでしまう癖がどうしても抜けず、中々上達しなかった。そこで通常のレッスンではあり得ないが、恐怖心を取り除けるよう両親にレッスンに帯同してもらった。このように両親とも信頼関係を構築すると共に、女児の恐怖心を取り除いた。そして、最終日には女児が 1 人で滑れるようになり、スノーボードを心の底から楽しんでもらえた。また両親からも深く感謝され、ウィンタースポーツの魅力を海外からの渡航者にも伝えられたことに大きなやりがいを感じた。私が中国語を話せていなければ、信頼関係の構築は難しかったと考える。同時にコミュニケーションにおける、言語の壁は相当な大きさであると痛感した。

生徒の家族写真

オリンピック金メダリスト
平野歩夢との写真

私はこのようなインストラクター活動を通じて、物事を最後まで諦めずに取り組んだことで私は人間として大きく成長したと考える。また、スノーボードの魅力を渡航者に伝えられた事に大きな喜びややりがいを感じた。このように自身で目標を立て、実行に向け試行錯誤した経験が初めてであったため、目標を達成する充実感は人生最大のものであった。

語学学習について

語学学習に関してはインストラクター期間中にて継続的に勉強しており、東京に戻り 4 月に受験した TOEIC で過去最高スコアを記録した。リーディングとリスニングのどちらも活動中に対策を行ったことが功を奏し、このような結果が出た。また中国語でも中国語検定 2 級を取得し、自身の持つ中国語検定 3 級を上位級へと更新した。

終わりに

私はアクティブ・ステューデント応援奨学金によって様々なことに挑戦でき、多くの経験を得た。また最初に掲げた三つの目標も達成することができた。これからも努力を惜しまず、語学力の向上に努めたい。また、スノーボードでの現在取得している C 級インストラクターの上位資格を取得したいと思う。

最後にはなりましたが、このような貴重な機会を提供して下さった国際経営学部の教授方や職員の方々はじめ、保護者並びに IPSS スノーボードスクールの皆様に心より感謝申し上げます。